

剤による精神症状の発現率に性差はなかった。

有機溶剤の次に乱用の多いブタンでは、精神病症状の発現頻度は男女とも30%弱であった。これは有機溶剤による精神病症状よりも少ない。またフラッシュバック発現率も有機溶剤乱用の場合と同等かやや少なかった。これらよりブタンは有機溶剤よりも精神症状発現効果は低いと推測される。

覚せい剤乱用は女性の場合精神病症状発現率が40%ほどでありやはり頻度が高い。またフラッシュバックも半数近くが経験していた。男性は乱用者が少ないため判断が難しい。

4. 今後の課題

1) 非行少年における薬物乱用の動向

児童自立支援施設においては、児童の入所期間は1年以上になることが多い。したがって、入所非行中の薬物乱用実態は一般非行児の乱用実態からやや遅れて調査結果に反映されると考えられる。警察白書で平成10年以降覚せい剤による少年検挙数は減少し、われわれの調査でも覚せい剤乱用者数は減少してきているように見える。覚せい剤乱用は有機溶剤など他の薬物乱用よりも重大な結果をもたらすので今後入所非行児においても減少するかどうか観察が必要である。

また、乱用薬物として最も多い有機溶剤も入所非行児とくに男性において減少が明らかであるが、今後この傾向が持続するのかが検討が必要である。女性の有機溶剤乱用率の減少は男性よりも小さいが、女性の方が乱用率そのものが高いため今後の動向が注目される。

また、今回はMDMAを調査対象に加えた。MDMAは俗称エクスタシー、エックス、Xなどとされる薬物であり、錠剤のため乱用への抵抗感が少ないといわれており、流行が懸念されている薬物である。薬理的にはメタアンフェタミンと類似しているものである。今回MDMAの乱用率は男女それぞれ0.9%と4.2%であった。それほど多い乱用率ではないが、新しい乱用薬物であり今後の動向を検討する必要がある。

2) 調査回収数

平成14調査では回答者数が802人であり、それ以前の回答者数1300人ほどから大幅に低下した。また、平成14調査では施設から回収率が64.9%であった。平成14調査では施設において他の調査と時期が重なったために回収率が悪かったと思われたが、本調査

が継続的に行われておりそのため回収率が低下した可能性もあった。そのため回収率を高めることが必要と考えられた。今回、薬物乱用項目以外の質問数を減らし全体の質問数を前回の92から62とした。回答数は1230人となりほぼ以前と同等の回収数が得られた。今後も回収数を維持できるよう調査方法を考えていく必要がある。

謝辞

本研究は、全国の児童自立支援施設の多くの方々のご協力により実施ができました。ご協力いただいた方々にここで深謝させていただきます。

参考文献

- 3) 阿部恵一郎：児童福祉施設(教護院)における有機溶剤乱用少年・少女の実態調査。平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存研究の社会的、精神医学的特徴に関する研究。平成6年度研究結果報告書。1995
- 4) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究。平成10年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」。1999
- 5) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究。平成12年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」。2001
- 6) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究。平成14年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」。2003
- 7) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究。平成15年度厚生科学研究「薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究」。2004
- 8) 平成13年度警察白書。警察庁編。2002
- 9) 平成16年版青少年白書。内閣府編。2005
- 10) 和田清：平成14年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」。2003

表1 性・学年構成

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
小学 4年以下	16	2.0		0.0
小学 5年	12	1.5	2	0.5
小学 6年	24	3.0	9	2.1
中学 1年	70	8.7	29	6.8
中学 2年	212	26.4	103	24.1
中学 3年	288	35.9	180	42.1
高校(専門学校) 1年	30	3.7	8	1.9
高校(専門学校) 2年	10	1.2	1	0.2
高校(専門学校) 3年	5	0.6	5	1.2
無職	33	4.1	58	13.6
就労中	15	1.9	5	1.2
無回答ほか	87	10.8	28	6.5
計	802	100.0	428	100.0

表2 性・年齢構成

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
9歳以下	8	1.0	0	0.0
10歳	13	1.6	1	0.2
11歳	20	2.5	2	0.5
12歳	50	6.2	23	5.4
13歳	135	16.8	51	11.9
14歳	287	35.8	154	36.0
15歳	199	24.8	141	32.9
16歳	49	6.1	34	7.9
17歳	19	2.4	15	3.5
18歳	9	1.1	4	0.9
19歳以上	3	0.4	1	0.2
無回答ほか	10	1.2	2	0.5
計	802	100.0	428	100.0

表3 施設入所期間

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
3ヶ月以下	173	21.6	95	22.2
4ヶ月から6ヶ月	118	14.7	80	18.7
6ヶ月から1年	189	23.6	104	24.3
1年から1年6ヶ月	134	16.7	67	15.7
1年6ヶ月から2年	66	8.2	31	7.2
2年以上	87	10.8	21	4.9
無回答	35	4.4	30	7.0
計	802	100.0	428	100.0

表4 地域別人数

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
東北・北海道	119	14.8	63	14.7
関東	236	29.4	100	23.4
中部	89	11.1	44	10.3
関西	142	17.7	78	18.2
中国	76	9.5	48	11.2
四国	32	4.0	14	3.3
九州	81	10.1	29	6.8
不詳	27	3.4	52	12.1
計	802	100.0	428	100.0

表5 非行歴

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
外泊や家出をした	551	68.7	371	86.7
人にけがをさせた	487	60.7	254	59.3
家からお金を持ち出した	487	60.7	303	70.8
自転車を盗んだ	538	67.1	305	71.3
人の物やお金を盗んだ	519	64.7	324	75.7
ひったくり、カツアゲ	296	36.9	200	46.7
家の中で暴れた	322	40.1	295	68.9
暴走族に入った	84	10.5	69	16.1
物や家に火をつけた	274	34.2	107	25.0
学校をさぼった	599	74.7	379	88.6
バイクや自動車を盗んだ	306	38.2	181	42.3
人の物やみんなの物をわざと壊した	303	37.8	200	46.7
不良仲間とつき合った	456	56.9	317	74.1
暴力団とつき合った	120	15.0	166	38.8
根性焼きや入墨をした	214	26.7	139	32.5
無免許運転	305	38.0	197	46.0
性関係のこと	229	28.6	263	61.4
その他	123	15.3	114	26.6

表6 初発非行年齢

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
小学校入学前	42	5.2	16	3.7
小学 1年	63	7.9	28	6.5
小学 2年	60	7.5	19	4.4
小学 3年	70	8.7	26	6.1
小学 4年	84	10.5	52	12.1
小学 5年	110	13.7	50	11.7
小学 6年	114	14.2	67	15.7
中学 1年	129	16.1	102	23.8
中学 2年	45	5.6	35	8.2
中学 3年	11	1.4	4	0.9
中学卒業後	2	0.2	4	0.9
無回答	72	9.0	25	5.8

表7 家庭裁判所への係属歴

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
ある	175	21.8	133	31.1
ない	574	71.6	278	65.0
無回答	53	6.6	17	4.0

表8 周囲の薬物乱用状況

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	291	36.3	308	72.0 1)
大麻	127	15.8	188	43.9 2)
覚せい剤	123	15.3	212	49.5 3)
ガス	211	26.3	181	42.3 4)
コカイン	31	3.9	56	13.1 5)
睡眠薬	77	9.6	160	37.4 6)
安定剤	55	6.9	111	25.9 7)
咳止め液	20	2.5	33	7.7 8)
MDMA	28	3.5	62	14.5 9)
その他	40	5.0	62	14.5 10)

1) $\chi^2=142.8$, d.f.=1, $p<.01$ 6) $\chi^2=142.9$, d.f.=1, $p<.01$
 2) $\chi^2=123.3$, d.f.=1, $p<.01$ 7) $\chi^2=90.2$, d.f.=1, $p<.01$
 3) $\chi^2=169.5$, d.f.=1, $p<.01$ 8) $\chi^2=20.0$, d.f.=1, $p<.01$
 4) $\chi^2=35.9$, d.f.=1, $p<.01$ 9) $\chi^2=16.5$, d.f.=1, $p<.01$
 5) $\chi^2=38.4$, d.f.=1, $p<.01$ 10) $\chi^2=36.4$, d.f.=1, $p<.01$

表9 本人の薬物乱用歴

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	115	14.3	189	44.2 1)
大麻	39	4.9	68	15.9 2)
覚せい剤	13	1.6	53	12.4 3)
ガス	110	13.7	110	25.7 4)
コカイン	6	0.7	12	2.8 5)
睡眠薬	28	3.5	82	19.2 6)
安定剤	16	2.0	45	10.5 7)
咳止め液	10	1.2	14	3.3 8)
MDMA	7	0.9	18	4.2 9)
その他	13	1.6	24	5.6 10)

1) $\chi^2=140.2$, d.f.=1, $p<.01$ 6) $\chi^2=88.5$, d.f.=1, $p<.01$
 2) $\chi^2=45.8$, d.f.=1, $p<.01$ 7) $\chi^2=45.6$, d.f.=1, $p<.01$
 3) $\chi^2=67.3$, d.f.=1, $p<.01$ 8) $\chi^2=6.6$, d.f.=1, $p<.05$
 4) $\chi^2=30.4$, d.f.=1, $p<.01$ 9) $\chi^2=16.5$, d.f.=1, $p<.01$
 5) $\chi^2=8.7$, d.f.=1, $p<.01$ 10) $\chi^2=16.2$, d.f.=1, $p<.01$

表10 おもな薬物の乱用頻度の年代変化(男性)

	単位:%					
	平成6年	平成8年	平成10年	平成12年	平成14年	平成16年
有機溶剤	41.2	37.3	30.3	26.4	21.6	14.3
大麻	5.5	6.7	4.8	5.0	4.9	4.9
覚せい剤	1.2	1.7	3.9	5.0	2.5	1.6

表11 おもな薬物の乱用頻度の年代変化(女性)

	単位:%					
	平成6年	平成8年	平成10年	平成12年	平成14年	平成16年
有機溶剤	59.6	50.6	48.5	52.3	46.5	44.2
大麻	22.0	19.0	14.4	14.7	15.9	15.9
覚せい剤	6.6	10.8	16.9	15.2	13.6	12.4

表12 地域別薬物乱用頻度(男性)

	単位:%			
	有機溶剤	大麻	覚せい剤	ブタン
東北・北海道(n=119)	12.6	6.7	1.7	19.3
関東(n=236)	9.7	3.4	1.3	12.7
中部(n=89)	16.9	5.6	2.2	19.1
関西(n=142)	17.6	7.0	1.4	9.9
中国(n=76)	11.8	2.6	1.3	18.4
四国(n=32)	6.3	0.0	0.0	9.4
九州(n=81)	23.5	3.7	0.0	4.9

表13 地域別薬物乱用頻度(女性)

	単位:%			
	有機溶剤	大麻	覚せい剤	ブタン
東北・北海道(n=63)	49.2	23.8	12.7	33.3
関東(n=100)	29.0	6.0	8.0	20.0
中部(n=44)	45.5	11.4	15.9	18.2
関西(n=78)	53.8	17.9	9.0	15.4
中国(n=48)	39.6	2.1	8.3	31.3
四国(n=14)	28.6	7.1	14.3	28.6
九州(n=29)	51.7	17.2	10.3	17.2

表14 自分の周囲の有機溶剤乱用による精神症状発現者

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
いた	108	13.5	131	30.6
いない	665	82.9	287	67.1
無回答	29	3.6	10	2.3

($\chi^2=51.0$, d.f.=1, $p<.01$)

表15 有機溶剤入手困難さ

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
簡単に手に入る	172	21.4	192	44.9
少々苦労するが、なんとか手に入る	91	11.3	54	12.6
ほとんど不可能だ	52	6.5	14	3.3
絶対不可能だ	242	30.2	60	14.0
無回答	245	30.5	108	25.2

($\chi^2=84.2$, d.f.=3, $p<.01$)

表16 有機溶剤乱用開始年齢(乱用者のみ)

	男性(n=115)		女性(n=189)	
	人数	%	人数	%
10歳以下	3	2.6	5	2.6
11歳	11	9.6	12	6.3
12歳	25	21.7	33	17.5
13歳	41	35.7	60	31.7
14歳	16	13.9	46	24.3
15歳以上	3	2.6	6	3.2
経験はあるが年齢はおぼえていない	4	3.5	12	6.3
無回答	12	10.4	15	7.9

($\chi^2=7.0$, d.f.=6, ns)

表17 最もしていた時の有機溶剤乱用頻度(乱用者のみ)

	男性(n=115)		女性(n=189)	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回	44	38.3	65	34.4
数回以上	40	34.8	65	34.4
ほとんど毎日	21	18.3	44	23.3
無回答	10	8.7	15	7.9

($\chi^2=1.1$, d.f.=2, ns)

表18 有機溶剤乱用への態度(男性)

	有機溶剤乱用 乱用者(n=115)		非乱用者(n=674)	
	人数	%	人数	%
法律で禁じられているから、すべきではないと思う	24	20.9	486	72.1
法律で禁じられているが、少々ならかまわないと思う	52	45.2	84	12.5
法律で禁じられているが、それを守る必要は全然ないと思う	35	30.4	42	6.2
無回答	4	3.5	62	9.2

($\chi^2=153.0$, d.f.=2, $p<.01$)

表19 有機溶剤乱用への態度(女性)

	有機溶剤乱用 乱用者(n=189)		非乱用者(n=223)	
	人数	%	人数	%
法律で禁じられているから、すべきではないと思う	30	15.9	119	53.4
法律で禁じられているが、少々ならかまわないと思う	94	49.7	50	22.4
法律で禁じられているが、それを守る必要は全然ないと思う	60	31.7	33	14.8
無回答	5	2.6	21	9.4

($\chi^2=73.8$, d.f.=2, $p<.01$)

表20 有機溶剤乱用禁止への態度(男性)

	有機溶剤乱用 乱用者(n=115)		非乱用者(n=674)	
	人数	%	人数	%
当然だと思う	27	23.5	417	61.9
しかたないことだと思う	36	31.3	100	14.8
シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないと思う	21	18.3	12	1.8
法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う	26	22.6	72	10.7
無回答	5	4.3	73	10.8

($\chi^2=110.2$, d.f.=3, $p<.01$)

表21 有機溶剤乱用禁止への態度(女性)

	有機溶剤乱用 乱用者(n=189)		非乱用者(n=223)	
	人数	%	人数	%
当然だと思う	32	16.9	91	40.8
しかたないことだと思う	47	24.9	45	20.2
シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないと思う	31	16.4	13	5.8
法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う	69	36.5	44	19.7
無回答	10	5.3	30	13.5

($\chi^2=40.8$, d.f.=3, $p<.01$)

表22 有機溶剤の知識(男性)

	有機溶剤乱用 乱用者(n=115)		非乱用者(n=674)	
	人数	%	人数	%
急性中毒死	45	39.1	169	25.1 1)
多発神経炎	59	51.3	196	29.1 2)
精神病状態	91	79.1	339	50.3 3)
無動機症候群	44	38.3	142	21.1 4)
フラッシュバック	69	60.0	257	38.1 5)
いずれも知らなかった	6	5.2	212	31.5 6)

1) $\chi^2=9.8$, d.f.=1, $p<.01$
 2) $\chi^2=22.2$, d.f.=1, $p<.01$
 3) $\chi^2=32.9$, d.f.=1, $p<.01$
 4) $\chi^2=18.1$, d.f.=1, $p<.01$
 5) $\chi^2=19.4$, d.f.=1, $p<.01$
 6) $\chi^2=33.8$, d.f.=1, $p<.01$

表23 有機溶剤の知識(女性)

	有機溶剤乱用 乱用者(n=189)		非乱用者(n=223)	
	人数	%	人数	%
急性中毒死	73	38.6	76	34.1 1)
多発神経炎	91	48.1	90	40.4 2)
精神病状態	165	87.3	159	71.3 3)
無動機症候群	95	50.3	86	38.6 4)
フラッシュバック	151	79.9	122	54.7 5)
いずれも知らなかった	14	7.4	35	15.7 6)

1) $\chi^2=0.9$, d.f.=1, ns
 2) $\chi^2=2.5$, d.f.=1, ns
 3) $\chi^2=15.6$, d.f.=1, $p<.01$
 4) $\chi^2=5.7$, d.f.=1, $p<.05$
 5) $\chi^2=29.0$, d.f.=1, $p<.01$
 6) $\chi^2=6.7$, d.f.=1, $p<.01$

表24 有機溶剤で体験した症状(有機溶剤乱用者)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
精神病状態	31	27.0	60	31.7 1)
フラッシュバック	23	20.0	48	25.4 2)
多発神経炎	12	10.4	9	4.8 3)
無動機症候群	20	17.4	49	25.9 4)

1) $\chi^2=0.8$, d.f.=1, ns
 2) $\chi^2=1.2$, d.f.=1, ns
 3) $\chi^2=3.8$, d.f.=1, ns
 4) $\chi^2=3.0$, d.f.=1, ns

表25 有機溶剤の薬害知識と乱用抑止(有機溶剤乱用者)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
しなかつたと思う	35	30.4	30	15.9
やはりしていたと思う	61	53.0	140	74.1
無回答	19	16.5	19	10.1

($\chi^2=13.3$, d.f.=1, $p<.01$)

表26 施設退所後、乱用しないと思うか(有機溶剤乱用者)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
絶対やらないと思う	84	73.0	99	52.4
多分やらないと思う	21	18.3	64	33.9
多分やると思う	6	5.2	20	10.6
絶対やると思う	3	2.6	3	1.6
無回答	1	0.9	3	1.6

($\chi^2=14.1$, d.f.=3, $p<.01$)

表27 退所後、乱用すると思う理由(退所後「多分やる」「絶対やる」と答えた者)

	男性乱用者(N=9)		女性乱用者(N=23)	
	人数	%	人数	%
誘われたらやると思うから	4	44.4	6	26.1
今もやりたいと思っているから	4	44.4	11	47.8
いやなことがあったらやると思うから	3	33.3	8	34.8
なんとなくそう思うから	3	33.3	7	30.4

表28 自分の周囲のブタン乱用による精神症状発現者

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
いた	64	8.0	62	14.5
いない	694	86.5	354	82.7
無回答	42	5.2	12	2.8

($\chi^2=11.8$, d.f.=1, $p<.01$)

表29 プタン入手困難さ

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
簡単に手に入る	337	42.0	187	43.7
少々苦勞するが、なんとか手に入る	38	4.7	27	6.3
ほとんど不可能だ	29	3.6	15	3.5
絶対不可能だ	199	24.8	59	13.8
無回答	199	24.8	140	32.7

($\chi^2=15.8$, d.f.=3, $p<.01$)

表30 プタン乱用開始年齢

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
10歳以下	8	7.3	4	3.6
11歳	3	2.7	6	5.5
12歳	14	12.7	23	20.9
13歳	39	35.5	29	26.4
14歳	16	14.5	25	22.7
15歳以上	3	2.7	3	2.7
経験はあるが年齢はおぼえていない	6	5.5	4	3.6
無回答	21	19.1	16	14.5

($\chi^2=8.2$, d.f.=6, $p<n.s.$)

表31 最もしていた時のプタン乱用頻度

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回	37	33.6	37	33.6
数回以上	36	32.7	45	40.9
ほとんど毎日	12	10.9	13	11.8
無回答	25	22.7	15	13.6

($\chi^2=0.5$, d.f.=2, ns)

表32 プタン乱用への態度(男性)

	ガス乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
すべきではないと思う	20	18.2	288	42.8
少々ならかまわないと思う	37	33.6	47	7.0
かまわない	38	34.5	36	5.3
知らなかった	10	9.1	260	38.6
無回答	5	4.5	42	6.2

($\chi^2=184.0$, d.f.=3, $p<.01$)

表33 プタン乱用への態度(女性)

	ガス乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
すべきではないと思う	14	12.7	84	28.5
少々ならかまわないと思う	42	38.2	39	13.2
かまわない	47	42.7	49	16.6
知らなかった	5	4.5	93	31.5
無回答	2	1.8	30	10.2

($\chi^2=76.7$, d.f.=3, $p<.01$)

表34 プタンの知識(男性)

	ガス乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
精神病状態	34	30.9	104	15.5 1)
急性中毒死	25	22.7	97	14.4 2)
いずれも知らなかった	57	51.8	464	68.9 3)

1) $\chi^2=15.6$, d.f.=1, $p<.01$
 2) $\chi^2=5.0$, d.f.=1, $p<.05$
 3) $\chi^2=12.5$, d.f.=1, $p<.01$

表35 プタンの知識(女性)

	ガス乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
精神病状態	37	33.6	69	23.4 1)
急性中毒死	35	31.8	57	19.3 2)
いずれも知らなかった	51	46.4	179	60.7 3)

1) $\chi^2=4.4$, d.f.=1, $p<.05$
 2) $\chi^2=7.1$, d.f.=1, $p<.01$
 3) $\chi^2=6.7$, d.f.=1, $p<.01$

表36 プタンで体験した症状(乱用者)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
精神病状態	31	28.2	30	27.3 1)
フラッシュバック	18	16.4	19	17.3 2)

1) $\chi^2=0.2$, d.f.=1, ns
 2) $\chi^2=0.0$, d.f.=1, ns

表37 プタンの知識と乱用抑止(プタン乱用者のみ)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
しなかったと思う	37	33.6	26	23.6
やはりしていたと思う	51	46.4	67	60.9
無回答	22	20.0	17	15.5

($\chi^2=4.5$, d.f.=1, ns)

表38 施設退所後、乱用しないと思うか(プタン乱用者のみ)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
絶対やらないと思う	70	63.6	60	54.5
多分やらないと思う	28	25.5	35	31.8
多分やると思う	6	5.5	10	9.1
絶対やると思う	1	0.9	3	2.7
無回答	5	4.5	2	1.8

($\chi^2=3.5$, d.f.=2, ns)

表39 退所後、乱用すると思う理由(退所後「多分やる」「絶対やる」と答えた者)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
誘われたらやると思うから	4	57.1	3	23.1
今もやりたいと思っているから	2	28.6	4	30.8
いやなことがあったらやると思うから	1	14.3	2	15.4
なんとなくそう思うから	1	14.3	7	53.8

表40 自分の周囲の大麻乱用による精神症状発現者

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
いた	53	6.6	87	20.3
いない	601	74.9	293	68.5
無回答	148	18.5	48	11.2

($\chi^2=44.9$, d.f.=1, $p<.01$)

表41 大麻入手困難さ

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
簡単に手に入る	62	7.7	87	20.3
少々苦勞するが、なんとか手に入る	87	10.8	96	22.4
ほとんど不可能だ	88	11.0	31	7.2
絶対不可能だ	351	43.8	93	21.7
無回答	214	26.7	121	28.3

($\chi^2=103.9$, d.f.=3, $p<.01$)

表42 大麻の知識

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
知らなかった	281	35.0	70	16.4
関心がなかった	341	42.5	162	37.9
見てみたかった	47	5.9	68	15.9
試してみたかった	44	5.5	76	17.8
無回答	89	11.1	52	12.1

($\chi^2=109.1$, d.f.=3, $p<.01$)

表43 大麻乱用開始年齢

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
10歳以下	2			
11歳	0		2	2.9
12歳	4	10.3	14	20.6
13歳	14	35.9	18	26.5
14歳	9	23.1	19	27.9
15歳以上	5	12.8	5	7.4
経験はあるが年齢はおぼえていない	0		4	5.9
無回答	5	12.8	6	8.8

($\chi^2=10.3$, d.f.=6, ns)

表44 最もしていた時の大麻乱用頻度

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回数回以上	16	41.0	28	41.2
ほとんど毎日	12	30.8	30	44.1
ほとんど毎日	3	7.7	4	5.9
無回答	8	20.5	6	8.8

($\chi^2=0.9$, d.f.=2, ns)

表45 大麻乱用への態度(男性)

	大麻乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
法律で禁じられているから、すべきではないと思う	5	12.8	551	73.9
法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思う	21	53.8	70	9.4
法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思う	9	23.1	47	6.3
無回答	4	10.3	78	10.5

($\chi^2=97.1$, d.f.=2, $p<.01$)

表46 大麻乱用への態度(女性)

	大麻乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
法律で禁じられているから、すべきで	11	16.2	164	48.8
法律で禁じられてはいるが、少々なら	36	52.9	93	27.7
法律で禁じられてはいるが、それを守	16	23.5	43	12.8
無回答	5	7.4	36	10.7

($\chi^2=28.9$, d.f.=2, $p<.01$)

表47 大麻乱用禁止への態度(男性)

	大麻乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
当然だと思う	11	28.2	493	66.1
しかたないことだと思う	8	20.5	89	11.9
大麻くらい禁止しなくてもいいのでは	8	20.5	16	2.1
法律で決める必要はなく、個人の好き	8	20.5	68	9.1
無回答	4	10.3	80	10.7

($\chi^2=56.1$, d.f.=3, $p<.01$)

表48 大麻乱用禁止への態度(女性)

	大麻乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
当然だと思う	11	16.2	138	41.1
しかたないことだと思う	22	32.4	74	22.0
大麻くらい禁止しなくてもいいのでは	11	16.2	10	3.0
法律で決める必要はなく、個人の好き	18	26.5	79	23.5
にさせればよいと思う	6	8.8	35	10.4
無回答	6	8.8	35	10.4

($\chi^2=30.8$, d.f.=3, $p<.01$)

表49 大麻の知識(男性)

	大麻乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
精神病状態	14	35.9	193	25.9 1)
無動機症候群	5	12.8	106	14.2 2)
いずれも知らなかった	18	46.2	470	63.0 3)

1) $\chi^2=1.9$, d.f.=1, ns
 2) $\chi^2=0.1$, d.f.=1, ns
 3) $\chi^2=4.5$, d.f.=1, $p<.05$

表50 大麻の知識(女性)

	大麻乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
精神病状態	36	52.9	144	42.9 ¹⁾
無動機症候群	25	36.8	93	27.7 ²⁾
いずれも知らなかった	22	32.4	157	46.7 ³⁾

1) $\chi^2=2.3$, d.f.=1, ns
2) $\chi^2=2.3$, d.f.=1, ns
3) $\chi^2=4.7$, d.f.=1, p<0.05

表51 大麻で体験した症状(乱用者)

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
精神病状態	9	23.1	18	26.5 ¹⁾
無動機症候群	7	17.9	17	25.0 ²⁾

1) $\chi^2=0.2$, d.f.=1, ns
2) $\chi^2=0.7$, d.f.=1, ns

表52 大麻の知識と乱用抑止(大麻乱用者のみ)

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
しなかったと思う	8	20.5	13	19.1
やはりしていたと思う	24	61.5	49	72.1
無回答	7	17.9	6	8.8

($\chi^2=0.2$, d.f.=1, ns)

表53 施設退所後, 乱用しないと思うか(大麻乱用者のみ)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
絶対やらないと思う	27	69.2	38	55.9
多分やらないと思う	9	23.1	24	35.3
多分やると思う	0	0.0	3	4.4
絶対やると思う	2	5.1	1	1.5
無回答	1	2.6	2	2.9

($\chi^2=4.8$, d.f.=3, ns)

表54 退所後, 乱用すると思う理由(退所後「多分やる」「絶対やる」と答えた者のみ)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
誘われたらやると思うから	1	50.0	3	75.0
今もやりたいと思っているから	2	100.0	2	50.0
いやなことがあったらやると思うから	0	0.0	2	50.0
なんとなくそう思うから	0	0.0	0	0.0

表55 自分の周囲の覚せい剤乱用による精神症状発現者

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
いた	79	9.9	111	25.9
いない	661	82.4	295	68.9
無回答	62	7.7	22	5.1

($\chi^2=52.6$, d.f.=1, p<0.01)

表56 覚せい剤の入手性

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
簡単に手に入る	62	7.7	78	18.2
少々苦勞するが, なんとか手に入る	89	11.1	104	24.3
ほとんど不可能だ	83	10.3	35	8.2
絶対不可能だ	361	45.0	78	18.2
無回答	207	25.8	133	31.1

($\chi^2=117.1$, d.f.=3, p<0.01)

表57 覚せい剤への関心

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
覚せい剤は知らなかった	240	29.9	42	9.8
関心がなかった	401	50.0	187	43.7
見てみたかった	48	6.0	70	16.4
試してみたかった	30	3.7	84	19.6
無回答	83	10.3	45	10.5

($\chi^2=158.9$, d.f.=3, p<0.01)

表58 覚せい剤乱用への誘い

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
ある	106	13.2	156	36.4
ない	408	50.9	148	34.6
無回答	288	35.9	124	29.0

($\chi^2=82.7$, d.f.=1, p<0.01)

表59 覚せい剤乱用開始年齢

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
10歳以下			3	5.7
11歳			1	1.9
12歳	1	7.7	11	20.8
13歳	2	15.4	10	18.9
14歳	4	30.8	14	26.4
15歳	1	7.7	3	5.7
経験はあるが年齢はおぼえていない	2	15.4	4	7.5
無回答			7	13.2

($\chi^2=7.0$, d.f.=6, ns)

表60 覚せい剤乱用頻度

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回	8	61.5	26	49.1
数回以上	3	23.1	15	28.3
ほとんど毎日			4	7.5
無回答	2	15.4	8	15.1

($\chi^2=1.4$, d.f.=2, ns)

表61 覚せい剤の乱用方法

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
吸引	6	46.2	22	41.5
注射	4	30.8	10	18.9
吸引と注射	1	7.7	13	24.5
無回答	2	15.4	8	15.1

($\chi^2=2.1$, d.f.=2, ns)

表62 覚せい剤への態度(男性)

	覚せい剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
法律で禁じられているから、すべきではないと思う	4	30.8	572	74.3
法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思う	6	46.2	67	8.7
法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思う	3	23.1	49	6.4
無回答		0.0	82	10.6

($\chi^2=29.9$, d.f.=2, p<.01)

表63 覚せい剤への態度(女性)

	覚せい剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
法律で禁じられているから、すべきではないと思う	14	26.4	177	50.9
法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思う	20	37.7	93	26.7
法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思う	17	32.1	42	12.1
無回答	2	3.8	36	10.3

($\chi^2=19.0$, d.f.=2, p<.01)

表64 覚せい剤禁止への態度(男性)

	覚せい剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
当然だと思う	4	30.8	503	65.3
しかたないことだと思う	3	23.1	72	
法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う	4	30.8	97	12.6
無回答	2	15.4	98	12.7

($\chi^2=8.4$, d.f.=2, p<.05)

表65 覚せい剤禁止への態度(女性)

	覚せい剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
当然だと思う	13	24.5	152	43.7
しかたないことだと思う	14	26.4	77	22.1
法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う	24	45.3	79	22.7
無回答	2	3.8	40	11.5

($\chi^2=12.5$, d.f.=2, p<.01)

表66 覚せい剤の知識(男性)

	覚せい剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
精神病状態	7	53.8	231	30.0 1)
フラッシュバック	8	61.5	180	23.4 2)
いずれも知らなかった	2	15.4	386	50.1 3)

1) $\chi^2=3.4$, d.f.=1, n.s.
2) $\chi^2=10.2$, d.f.=1, p<.01
3) $\chi^2=6.1$, d.f.=1, p<.05

表67 覚せい剤の知識(女性)

	覚せい剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
精神病状態	34	64.2	181	52.0 1)
フラッシュバック	34	64.2	150	43.1 2)
いずれも知らなかった	8	15.1	111	31.9 3)

1) $\chi^2=2.7$, d.f.=1, p<.01
2) $\chi^2=8.2$, d.f.=1, p<.01
3) $\chi^2=6.2$, d.f.=1, p<.05

表68 有機溶剤で体験した症状

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
精神病状態	2	15.4	21	39.6 1)
フラッシュバック	5	38.5	25	47.2 2)

1) $\chi^2=2.7$, d.f.=1, ns
2) $\chi^2=0.3$, d.f.=1, ns

表69 覚せい剤の知識と抑止

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
使わなかったと思う	5	38.5	11	20.8
やはり使ったと思う	5	38.5	33	62.3
無回答	3	23.1	16	30.2

($\chi^2=2.4$, d.f.=1, ns)

表70 施設退所後、乱用しないと思うか(覚せい剤乱用者のみ)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
絶対やらないと思う	6	46.2	27	50.9
多分やらないと思う	4	30.8	15	28.3
多分やると思う	2	15.4	7	13.2
絶対やると思う	0	0.0	1	1.9
無回答	1	7.7	3	5.7

($\chi^2=0.4$, d.f.=1, ns)

表71 退所後、乱用すると思う理由(退所後「多分やる」「絶対やる」と答えた者のみ)

	男性乱用者		女性乱用者	
	人数	%	人数	%
誘われたらやると思うから	1	50.0	3	37.5
今もやりたいと思っているから	1	50.0	2	25.0
いやなことがあったらやると思うから	0	0.0	4	50.0
なんとなくそう思うから	0	0.0	2	25.0

調査へのお願い

この調査の目的は、飲酒・薬物などに対するみなさんの考えや経験を知ることです。

この調査は、厚生労働省の科学研究費によるもので、現在、全国の一般中学生でも同様な調査が行われています。

自分の名前は書く必要はありませんし、集めた用紙もコンピュータで集計しますので、誰がどのように答えたのか分かりません。したがって、答えた内容が施設での生活や退院時期に影響することはありません。どうしても答えたくない質問には答えなくてもかまいません。

各質問に対する回答は、特にことわらない限りもっともあてはまる内容の番号を一つだけ選んで○をつけて下さい。

国立武蔵野学院 医務課長 富田 拓
目白大学 教授 庄司正実

- 1 あなたの年齢はいくつですか？ 年齢を記入してください _____ 歳
- 2 学校は？ ①小学校 ②中学校 ③高校 ④専門学校 ⑤中学卒業後で無職 ⑥就労中
- 3 何年生ですか？ 学年を記入してください _____ 年生
- 4 男性ですか，女性ですか？ ①男性 ②女性
- 5 今回，この施設に入所してからどのくらいになりますか？ _____ 年 _____ ヶ月
- 6 あなたの身近(友達，先輩，知り合い，家族など)で以下のような薬物をやっている人はいましたか？
- 1) シンナーやトルエン (ボンド，マニユキヤの除光液なども含む) ①いた ②いない
- 2) マリファナ (大麻，ハッパ，ハシッシも同じ) ①いた ②いない
- 3) 覚せい剤 (エス，スピード，シャブも同じ) ①いた ②いない
- 4) ガス (ライター用ガス，カセットコンロ用ガスなど) ①いた ②いない
- 5) コカイン (クラックも同じ) ①いた ②いない
- 6) 睡眠薬 (病気治療以外の目的で) ①いた ②いない
- 7) 精神安定剤 (病気治療以外の目的で) ①いた ②いない
- 8) ブロン薬などのセキ止め液 (病気治療以外の目的で) ①いた ②いない
- 9) MDMA (エクスタシー，エックス，Xも同じ) ①いた ②いない
- 10) その他の薬物 ①いた ②いない
- 7 あなた自身は以下のような薬物を1回でも使用したことがありますか？
- 1) シンナーやトルエン (ボンド，マニユキヤの除光液なども含む) ①ある ②ない
- 2) マリファナ (大麻，ハッパ，ハシッシも同じ) ①ある ②ない
- 3) 覚せい剤 (エス，スピード，シャブも同じ) ①ある ②ない
- 4) ガス (ライター用ガス，カセットコンロ用ガスなど) ①ある ②ない
- 5) コカイン (クラックも同じ) ①ある ②ない
- 6) 睡眠薬 (病気治療以外の目的で) ①ある ②ない
- 7) 精神安定剤 (病気治療以外の目的で) ①ある ②ない
- 8) ブロン薬などのセキ止め液 (病気治療以外の目的で) ①ある ②ない
- 9) MDMA (エクスタシー，エックス，Xも同じ) ①ある ②ない
- 10) その他の薬物 ①ある ②ない
- 8 この施設に入る前，お酒 (アルコール類) をどのくらい飲んでいましたか？
- ①飲んだことはない ②1年で数回飲んだ ③月に2，3回 ④週に2，3回かそれ以上
- 9 あなたの身近に「シンナー遊び」の結果，病気や異常になった人がいましたか？
- ①いた ②いない
- 10 施設に入る前，「シンナー遊び」のために有機溶剤(シンナー，トルエン，その他)を手に入れようとした場合，それはどの程度難しいことでしたか？
- ①簡単に手に入る ②少々苦勞するが，なんとか手に入る
- ③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ
- 11 これまでに一回でも「シンナー遊び」を経験したことがありますか？ある場合は，初めて経験した年齢を選んでください
- ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
- ⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない
- 12 施設に入る前，最もしていた時で「シンナー遊び」をどのくらいしていましたか？
- ①したことはない ②今まで1，2回くらい ③数回以上した ④ほとんど毎日
- 13 「シンナー遊び」は法律で禁止されていますが，「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)，あなたは「シンナー遊び」をどう思っていましたか？

- ①法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
- ②法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
- ③法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた

14 法律で「シンナー遊び」を禁止しているのを「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)どう思っていましたか？

- ①当然だと思っていた
- ②しかたないことだと思っていた
- ③麻薬・覚せい剤とちがって、シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないかと思っていた
- ④そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思っていた

15 「シンナー遊び」をしすぎたり繰り返したりすると、下のようなことが起こることがあります。「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)、「シンナー遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ①急性中毒死(吸っていてそのまま急に死ぬこと)
- ②多発神経炎(手足の筋肉や神経がおとろえ、物がつかめなくなったり、歩けなくなる)
- ③精神病状態(何も無いのに物が見えたり声が聞こえたりする幻覚、誰もいないのに自分が見られているとか自分が噂されていると思ひこんだりする妄想がでること)
- ④無動機症候群(何もする気がなくなり、学校を欠席したり仕事が長続きしなくなる)
- ⑤フラッシュバック(「シンナー遊び」をやめて吸わなくなったのに、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻覚や妄想が出る)
- ⑥いずれも知らなかった

16 「シンナー遊び」の結果、上記のような精神病状態やフラッシュバックなどを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと「シンナー遊び」をしていない人は⑤を選んでください)

- ①精神病状態
- ②フラッシュバック
- ③多発神経炎
- ④無動機症候群
- ⑤「シンナー遊び」はしたことがない

17 「シンナー遊び」をすると上記質問のような急性中毒死・多発神経炎・精神病状態・無動機症候群・フラッシュバックをおこすことを知っていたら「シンナー遊び」をしなかったと思いますか？(もともと「シンナー遊び」をしていない人は③を選んでください)

- ①しなかったと思う
- ②やはりしていたと思う
- ③「シンナー遊び」はしたことがない

18 この施設を出た後、「シンナー遊び」はやらないと思いますか？

- ①絶対やらないと思う
- ②多分やらないと思う
- ③多分やると思う
- ④絶対やると思う

19 「③多分やると思う」「④絶対やると思う」と答えた人は、その理由を以下から選んであてはまることすべてに○をつけてください。

- ①誘われたらやると思うから
- ②今もやりたいと思っているから
- ③いやなことがあったらやると思うから
- ④なんとなくそう思うから

20 あなたの身近に「ガスパン遊び(ガスの吸引)」の結果、病気や異常になった人がいましたか？

- ①いた
- ②いない

21 施設に入る前、「ガスパン遊び」のためのライターガスなどを手に入れようとした場合、それはどの程度難しいことでしたか？

- ①簡単に手に入る
- ②少々苦勞するが、なんとか手に入る
- ③ほとんど不可能だ
- ④絶対不可能だ

22 「ガスパン遊び」をする前(使ったことがない人は施設入所前)、「ガスパン遊び」についてあなたはどう思っていましたか？

- ①「ガスパン遊び」は知らなかった ②関心がなかった ③見てみたかった ④試してみたかった
- 23 これまでに一回でも「ガスパン遊び」を経験したことがありますか？ある場合は、初めて経験した年齢を選んでください
- ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない
- 24 施設に入る前、最もしていた時で「ガスパン遊び」をどのくらいしていましたか？
- ①したことはない②今まで1, 2回くらい ③数回以上した ④ほとんど毎日
- 25 「ガスパン遊び」をする前(したことがない人は施設入所前), あなたは「ガスパン遊び」をどう思っていましたか？
- ①すべきではないと思っていた ②少々ならかまわないと思っていた
③かまわないと思っていた ④「ガスパン遊び」は知らなかった
- 26 「ガスパン遊び」をすると質問15のような精神病状態や急性中毒死をおこすことをガスパン遊びをする前に(したことがない人は施設入所前)知っていましたか？「ガスパン遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください.
- ①精神病状態 ②急性中毒死 ③いずれも知らなかった
- 27 「ガス」を使った結果、精神病状態やフラッシュバックを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと「ガス」を使っていない人は③を選んでください)
- ①精神病状態 ②フラッシュバック ③「ガスパン遊び」はしたことがない
- 28 「ガスパン遊び」をすると、精神病状態や急性中毒死をおこすことがあるのを知っていたら「ガスパン遊び」をしなかったと思いますか？(もともと「ガス」を使っていない人は③を選んでください)
- ①使わなかったと思う ②やはり使ったと思う ③「ガスパン遊び」はしたことがない
- 29 この施設を出た後、「ガスパン遊び」はやらないと思いますか？
- ①絶対やらないと思う ②多分やらないと思う ③多分やると思う ④絶対やると思う
- 30 「③多分やると思う」「④絶対やると思う」と答えた人は、その理由を以下から選んであてはまることすべてに○をつけてください.
- ①誘われたらやると思うから ②今もやりたいと思っているから
③いやなことがあったらやると思うから ④なんとなくそう思うから
- 31 あなたの身近に大麻を吸った結果、病気や異常になった人がいましたか？ ①いた ②いない
- 32 施設に入る前、大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度難しいことでしたか？
- ①簡単に手に入る ②少々苦勞するが、なんとか手に入る
③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ
- 33 大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前), 大麻についてあなたはどう思っていましたか？
- ①大麻は知らなかった ②関心がなかった ③見てみたかった ④試してみたかった
- 34 これまでに一回でも大麻(マリファナ, ハシッシ, ハッパ)を吸ったことがありますか？ある場合は、初めて経験した年齢を選んでください
- ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない
- 35 施設に入る前、最もしていた時で大麻をどのくらい吸っていましたか？
- ①したことはない②今まで1, 2回くらい ③数回以上した ④ほとんど毎日
- 36 大麻は法律で禁止されていますが、大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前)あなたは大麻をどう思っていましたか？
- ①法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた

- ②法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
 ③法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた
- 37 大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前), 法律で大麻を禁止しているのをどう思っていましたか?
 ①当然だと思っていた
 ②しかたないことだと思っていた
 ③麻薬・覚醒剤とちがって, 大麻くらい禁止しなくてもいいのではないかと
 ④そもそも法律で決める必要はなく, 個人の好きにさせればよい
 ⑤そうでもないかと思っていた
- 38 大麻を吸うと質問15と同じ精神病状態や無動機症候群をおこすことを大麻を吸う前(したことがない人は施設入所前)に知っていましたか? 大麻でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。
 ①精神病状態 ②無動機症候群 ③いずれも知らなかった
- 39 大麻を吸った結果, 精神病状態や無動機症候群を体験したことがありますか? 体験したことすべてに○をつけてください。(もともと大麻を使っていない人は③を選んでください)
 ①精神病状態 ②無動機症候群 ③大麻は使ったことがない
- 40 大麻を吸うと精神病状態や無動機症候群をおこすことがあるのを知っていたら大麻を使わなかったと思いますか? (もともと大麻を使っていない人は③を選んでください)
 ①使わなかったと思う ②やはり使ったと思う ③大麻は使ったことがない
- 41 この施設を出た後, 大麻はやらないと思いますか?
 ①絶対やらないと思う ②多分やらないと思う ③多分やると思う ④絶対やると思う
- 42 「③多分やると思う」「④絶対やると思う」と答えた人は, その理由を以下から選んであてはまることすべてに○をつけてください。
 ①誘われたらやると思うから ②今もやりたいと思っているから
 ③いやなことがあったらやると思うから ④なんとなくそう思うから
- 43 あなたの身近に覚醒剤(スピード, エス)の結果, 病気や異常になった人がいましたか?
 ①いた ②いない
- 44 施設に入る前, 覚醒剤(スピード, エス)を手に入れようとした場合, それはどの程度難しいことでしたか?
 ①簡単に手に入る ②少々苦勞するが, なんとか手に入る
 ③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ
- 45 覚醒剤(スピード, エス)を使う前(使ったことがない人は施設入所前), 覚醒剤についてあなたは
 どう思っていましたか?
 ①覚醒剤は知らなかった ②関心がなかった ③見てみたかった ④試してみたかった
- 46 入所前, 覚醒剤(スピード, エス)の使用を誘われたことがありますか? ①ある ②ない
- 47 これまでに一回でも覚醒剤(スピード, エス)を使用したことがありますか? ある場合は初めて経験した年齢を選んでください
 ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
 ⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない
- 48 施設に入る前, 最も使っていた時で覚醒剤(スピード, エス)をどのくらい使っていましたか?
 ①したことはない ②今まで1, 2回くらい ③数回以上した ④ほとんど毎日
- 49 覚醒剤(スピード, エス)を使ったことがある人はどんな方法で使用しましたか? (もともと覚醒剤をしていない人は④を選んでください)
 ①吸引 ②注射 ③吸引と注射の両方 ④覚醒剤は使ったことがない

- 50 覚醒剤(スピード, エス)は法律で禁止されていますが、覚醒剤(スピード, エス)を使う前(使ったことがない人は施設入所前)あなたは覚醒剤をどう思っていましたか？
- ①法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
 ②法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
 ③法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた
- 51 覚醒剤(スピード, エス)を使う前(使ったことがない人は施設入所前), 法律で覚醒剤(スピード, エス)を禁止しているのをどう思っていましたか？
- ①当然だと思っていた
 ②しかたないことだと思っていた
 ③そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思っていた
- 52 覚醒剤によって質問15と同じ精神病状態やフラッシュバックが起こることを覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)知っていましたか？覚醒剤でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。
- ①精神病状態 ②フラッシュバック ③いずれも知らなかった
- 53 覚醒剤を使った結果、精神病状態やフラッシュバックを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと覚醒剤を使っていない人は③を選んでください)
- ①精神病状態 ②フラッシュバック ③覚醒剤は使ったことがない
- 54 覚醒剤を使うと、精神病状態, フラッシュバックをおこすことを知っていたら覚醒剤を使わなかったと思いますか？(もともと覚醒剤を使っていない人は③を選んでください)
- ①使わなかったと思う ②やはり使ったと思う ③覚醒剤は使ったことがない
- 55 この施設を出た後、覚醒剤はやらないと思いますか？
- ①絶対やらないと思う ②多分やらないと思う ③多分やると思う ④絶対やると思う
- 56 「③多分やると思う」「④絶対やると思う」と答えた人は、その理由を以下から選んであてはまることすべてに○をつけてください。
- ①誘われたらやると思うから ②今もやりたいと思っているから
 ③いやなことがあったらやると思うから ④なんとなくそう思うから
- 57 シンナー遊び, ガspan遊び, 大麻, 覚醒剤のいずれかでも使ったことがある人に聞きます。これまで使った順にそれぞれの()のなかに1から順に番号を付けてください。一つだけしかやっていない人は1のみ, 二つやったことがある人は1から2まで, 三つやったことがある人は1から3まで, というふうに経験のある薬物の数だけ使った順に番号をつけてください。(いずれも使っていない人は何もつけなくてかまいません)
- () シンナー遊び(シンナー, トルエン, ボンド, マニユキヤの除光液など)
 () ガspan遊び(ライター用ガス, カセットコンロ用ガスなど)
 () マリファナ(大麻, ハッパ, ハシッシも同じ)
 () 覚醒剤(エス, スピード, シャブも同じ)
 () 睡眠薬(病気治療以外の目的で)
 () その他の薬物(安定剤, 咳止め液, コカイン, MDMAなど)
- 58 施設(児童自立支援施設)に入ったのはいつですか？
- ①小学4年生以下 ②小学5年生 ③小学6年生
 ④中学1年生 ⑤中学2年生 ⑥中学3年生
 ⑦高校・専門学校生 ⑧就職中 ⑨中卒後無職中
- 59 家庭裁判所から呼び出されたことはありますか？ ①ある ②ない

- 60 以下のようないわゆる非行について、したことがあるのはどれですか？したことがあるものすべてに○をつけてください。
- | | | |
|-------------|--------------|-------------------|
| ①外泊や家出をした | ②人にけがをさせた | ③家からお金を持ち出した |
| ④自転車を盗んだ | ⑤人の物やお金を盗んだ | ⑥ひったくり、カツアゲ |
| ⑦家の中で暴れた | ⑧暴走族に入った | ⑨物や家に火をつけた |
| ⑩学校をさぼった | ⑪バイクや自動車を盗んだ | ⑫人の物やみんなの物をわざと壊した |
| ⑬不良仲間とつき合った | ⑭暴力団とつき合った | ⑮根性焼きや入墨をした |
| ⑯無免許運転 | ⑰性関係のこと | ⑱その他 |
- 61 このような非行を、あなたが初めてしたのはいつですか？
- | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| ①小学校入学前 | ②小学1年生 | ③小学2年生 | ④小学3年生 | ⑤小学4年生 |
| ⑥小学5年生 | ⑦小学6年生 | ⑧中学1年生 | ⑨中学2年生 | ⑩中学3年生 |
| ⑪中学卒業以後 | | | | |
- 62 自傷行為（自分で手首を切る、自殺しようとするなど）をしたことがありますか？
- | | | | |
|-----|-------|-----------|---------|
| ①ない | ②1回ある | ③2回から3回ある | ④数回以上ある |
|-----|-------|-----------|---------|

ご協力ありがとうございました

分担研究報告書
(1-4)

救命救急センターにおける薬物乱用・依存等の実態に関する研究

分担研究者 相星淳一 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター 助手
研究協力者 柴田泰史 日本医科大学付属病院 検査部

研究要旨 日本医科大学付属病院高度救命救急センターに搬送された200症例を対象に乱用薬物簡易検査キットであるTriage DOAを使用し、尿検体のスクリーニング検査および確認試験を実施した。患者のプライバシー保護の観点からunlinked anonymous法を用いた。入室患者200症例の平均年齢は59.0±19.7歳で、男性130例、女性70例であった。症例の内訳は外傷32例、脳血管障害26例、薬物中毒25例、心肺停止症例24例、呼吸不全17例、消化管出血16例、その他14例、心不全12例、急性腹症11例、代謝異常10例、熱傷9例、血管緊急症4例で、Triage陽性症例は57例(28.5%)であった。Triage陽性薬物は、benzodiazepines (BZO)44例、tricyclic antidepressants (TCA)8例、barbiturates (BAR)6例、opiates (OPI)12例、amphetamine (AMP)3例、cannabinoids (THC)1例であった。確認試験の結果、OPI12例全例でコデインあるいはジハイドロコデインが検出された。また、AMP3例のうち1例はエフェドリンによる偽陽性であった。本年度の非合法薬物の乱用率は1.5%であり、昨年度と比較して、有意な増加は認めなかった。

A. 背景

日本医科大学付属病院高度救命救急センターの年間症例数は近年増加し、平成16年度は約1800症例である。そのうち、薬物中毒患者は6~7%に相当する。乱用薬物患者が搬入される可能性としては、乱用薬物自体による急性および慢性中毒症状(意識障害、痙攣など)、乱用薬物の作用が事件や事故に関与する外因性急性疾患(交通事故、傷害など)、薬物作用による内因性疾患の誘発や憎悪(中枢神経疾患、心疾患など)、薬物あるいは薬物を併用した自殺企図などがある。臨床的には、乱用薬物に対する治療以外に、薬物作用によって症状や症候が隠蔽され診断を困難にすることも少なくない。従って、薬物乱用患者を正確に認知することは救急医療にとって重要である。

覚せい剤中毒は第三次覚せい剤乱用期にあり、乱用の拡大が社会問題になっている。さらに、覚せい剤の検挙者数は徐々に減少する一方、大麻、MDMAの検挙者数は急増している。特に、20歳代を中心とした若年層への拡大は新たな問題である。よって、薬物乱用・依存の実態を把握するため、日本医科大学付属病院高度救命救急センターに搬入された患者を対象に、簡易検査キットを用い尿検体のスクリーニング検査および確認試験を実施

した。100例を対象とした昨年度の研究結果では、アンフェタミンが1例検出され、非合法薬物の乱用率は1.0%であった。

B. 対象・目的

対象は平成17年1月12日~平成17年2月28日までの期間に日本医科大学付属病院高度救命救急センターに入室した症例に対して連続サンプリングを行い、検体量不足の症例を除外した200症例を対象とした。非合法薬物の乱用・依存の実態を把握することを目的に、尿スクリーニング検査および確認試験を実施した。

C. 方法

救命救急センター入院後、診断・治療を目的に不特定の医師が採尿を行った。その後、破棄される予定の尿の一部を収集し、簡易薬物スクリーニングキットであるTriage DOA (Biosite Diagnostics)を用いて検査を行った。今回使用したTriageの定性対象薬物は、amphetamine (AMP)、barbiturates (BAR)、benzodiazepines (BZO)、cannabinoids (THC)、cocaine (COC)、opiates (OPI)、pencyclidine (PCP)、tricyclic antidepressant

s (TCA) の8種である。さらに、定性試験の終了後、LC/MS、GC/MSで確認試験を行った。以上の結果から今年度の不法薬物の乱用率を算出し、昨年度と比較検討した。

倫理面に関しては、人を対象とした臨床研究であり、しかも違法性の禁止薬物の検出であることから、プライバシーの保護に関しては格別の配慮を要することは当然である。この点については、1. 尿は診療上の必要から入室患者全例から採取しており、検体とすることによる身体的、精神的負担を強いるものではないこと。2. 分析の結果は診療上に対してのみ反映させ、法に基づく正規の手続きによる要請以外では漏洩することはないこと。3. 尿検体と個人の一対一対応が不可能なunlinked anonymous法を用いることにより、個人の秘密情報を開示漏出させず、患者個人には不利益を与えるものでないこととする。

統計解析はStatView version 5.0を使用し、カイ二乗検定およびt-検定を行った。P<0.05を統計学的に有意と判定した。

D. 結果

入室患者200症例の平均年齢は59.0±19.7歳で、男性130例(65%)、女性70例(35%)であった。2004年全入室症例1764例の平均年齢は56.8±20.5歳、男性1098例、女性666例で、平均年齢および性別については有意差を認めなかった(表1)。研究対象症例の年齢構成では、平林らの研究結果と近似して、60歳以上の症例は全体の59%を占め、二峰性を示した(表2)。また、疾患分類でみると、外傷、脳血管障害、中毒、心肺停止症例が、全体の54%を占めた(表3)。

本研究でのTriage陽性例は、57例(28.5%)であった(表4)。Triageによる検出薬物(重複例を含む)は、BZ044例、TCA8例、BAR6例、OPI12例、AMP3例、THC1例であった(表4)。これらについて確認試験を実施したところ、非合法薬物を含め計29種類の薬物が確認された(表5)。OPIでは全例にコデインあるいはジハイドロコデインが検出された。また、AMP3例のうち、1例はエフェドリンによる偽陽性例であった(表4)。

今年度に検出された非合法薬物はAMP2例、THC1例で、平均年齢は32.3±4.5歳(28~37歳)、性別は男性2例、女性1例であった(表6)。疾患分類

では、薬物中毒以外に、外傷および脳血管障害の症例で薬物が確認された(表7)。また、昨年度との乱用率の比較検討では、有意な増加を認めなかった(表8)

当救命救急センターで診断された非合法薬物の過去6年間の経年的変化をみると、1999~2003年まで3~7例(平均4.8例)と横ばいに推移したが、昨年度は10例に増加した(図1)。非合法薬物使用者の平均年齢は33.7±9.0歳(18~53歳)、性別は男性12例、女性22例(64.7%)、確認された薬物はAMP29例(85.3%)、THC3例、COC1例、MDMA1例であった(表9)。また、疾患分類では約70%の症例が薬物中毒であったが、外傷、急性腹症、その他の症例も含まれていた(表9)。

E. 考察

本研究の対象症例が当施設の全入院症例の代表的な集団であるか否かを検討するため、年齢および性別について2004年全入室症例と比較検討した。その結果、年齢および性別には有意差はないが、疾患の時期的偏りや無尿例(心肺停止例など)があることから、バイアスが存在する可能性がある。

Triageによるスクリーニング検査で、57症例が陽性所見を示した。そのうち、非合法薬物(OPI、AMP、THC)は16例で陽性であったが、確認試験の結果、AMP2例、THC1例を同定した。OPI陽性の12例すべてにコデインあるいはジハイドロコデインが含まれていたが、麻薬系薬物は検出されなかった。また、AMP陽性の1例では、エフェドリンが確認され偽陽性と判断された。以前の我々の報告や今回の研究結果からも、確認試験は不可欠であると考えられる。

本研究では、3例の非合法薬物の使用が確認された。当施設の症例台帳による疾患分類によると、薬物中毒1例、外傷1例、脳血管障害1例であり、必ずしも中毒症状が主症状として診断・治療されている訳ではない。当施設で診断された過去6年間(1999~2004年)の統計でも約3割は薬物中毒以外の疾患であり、特に外傷は2番目(17.6%)に多い。また、今回の脳血管障害症例はAMPの薬理作用による交感神経刺激が脳出血に関与したことが推測される。このように、診断・治療を進めるうえで、薬物中毒を鑑別するためのスクリーニ

ング検査は、救急医療では極めて有効である。また、意識障害、呼吸・循環の異常を呈する薬物中毒症例は3次医療施設に搬送されるが、中等症以下の症例は二次救急医療施設で診断・治療される場合が多い。現在、急性薬物中毒（催眠鎮静剤、抗不安薬による中毒を除く）が疑われる患者に対して原因物質の分析等、必要な救命救急管理を実施した場合に限り、救命救急入院料に加算できる施設は全国の17ヶ所の高度救命救急センターに限定されており、多くの医療施設ではTriageなどのスクリーニング検査は医療施設あるいは患者負担で行われているため、ほとんど普及していないのが現状であろう。非合法薬物の蔓延を阻止するためには、取り締まりや薬物に関する教育と並行して、より早期に薬物使用者を認知し、治療・社会復帰させることも重要な対策であることから、簡易スクリーニングキットの保険適応が切望される。

昨年度の実態調査では非合法薬物の乱用率は1.0%であった。本年度は200例中に3例の薬物使用者を認め、その乱用率は1.5%である。昨年度と比較して、乱用率には有意な変動はなかった。平林らは、低い薬物乱用率の経年的変化を統計学的に明らかにするには、研究対象の年齢を制限することにより統計学的鋭敏度を高める必要があると報告している。我々の施設における過去6年間の非合法薬物症例34例の平均年齢は 33.7 ± 9.0 歳（18～53歳）で、95%、99%信頼度区間はそれぞれ15.7～51.7歳、6.7～60.7歳であった。本研究対象症例に99%信頼度区間（7～60歳）を用いると、200例中82例（41%）であり、今年度の乱用率は1.5%から3.7%まで引き上げることが可能である。しかしながら、研究対象および薬物使用者の高齢化も考慮されることから、今後は年齢の限定あり／なしの両面から経年的調査を継続する。

大麻、MDMAの若年層での乱用の急増が社会問題になっている。警察庁による薬物情勢の報告では、平成15年度におけるMDMAの検挙者数は前年比の2倍である約250人に達し、その半数以上（59%）は20～29歳代の若年者で、初犯が大多数を占めている。MDMAの服用後、血中濃度は数時間で最高値に至り、MDAやその他の代謝物に代謝され、未変化のMDMAと共に尿中に排泄される。本研究で使用したTriage DOAはMDMA、MDAの定性は可能で、尿中MDMA、MDA濃度のカットオフ値はそれぞれ2000n

g/mL、1200ng/mLである。我々は過去に中毒症状を呈して搬送されたMDMA症例を経験した。Triageによるスクリーニング検査ではAMP陽性で、さらに、尿検体の確認試験によってMDMAおよびMDAを検出した。しかしながら、MDMAによる中毒症状と尿中濃度との相関性についての報告やMDMAに対するTriageの感度、特異度に関する臨床的検討はなく、その判定には慎重でなければならない。

F. 結語

1. 本研究対象におけるTriage陽性例は57例（28.5%）で、確認試験によって計29種類の薬物が検出された。
2. 非合法薬物使用は3例で、AMP2例、THC1例が確認された。本年度の乱用率は1.5%で、昨年度と比較して有意な乱用率の増加は認めなかった。
3. 非合法薬物（OPI、AMP、THC）のTriage陽性例のうち、OPI陽性例のすべてはコデインあるいはジハイドロコデインが含まれ、麻薬系薬物は検出されなかった。また、AMP陽性の1例はエフェドリンによる疑陽性であり、確認試験は必須である。
4. 過去6年間の非合法薬物使用34例の検討では、約30%の症例は薬物中毒以外の疾患で入院治療を受けており、鑑別診断のためのスクリーニング検査は救急医療において必要不可欠である。
5. 非合法薬物の乱用の拡大を阻止するためには、より早期に乱用者を認知し、治療、社会復帰させることが重要であることから、薬物簡易スクリーニング検査キットの保険適応が強く望まれる。